

## 舞鶴市西舞鶴地区における地域連携アニメーション上映会

### 実施の試み

#### ―二〇二三年度特別制作研究助成事業報告―

今井 隆介・大西 宏志・中村 古都子

#### 一、概要と目的

本稿は京都芸術大学二〇二三年度特別制作研究費助成事業「アニメーション上映会を軸とする過疎地域の文化振興および地域連携教育プログラムの構築」の実施経過と結果に対する考察の報告である。本助成事業の目的は第一に、映画館のない町だった京都府舞鶴市西舞鶴地区に近年開業したミニシアター<sup>(1)</sup>を拠点として、過疎化が懸念される地域の文化振興策を模索すること。第二に、アニメーション作品の制作や上映が果たすべき社会貢献について、本学大学院生（情報デザイン・プロダクトデザイン領域アニメーション分野）が実地に学ぶ機会を設けるとともに、地域と大学が連携する教育プログラムの端緒を開くことである。

個人単位のオンデマンド動画配信が普及した昨今、公共の場に人々が集まって映像作品を視聴し体験を共有する時間は相対的に減少し、制作者が視聴者の反応に直に接したり、作品の制作と上映が社会に対して果たす役割を実感したりする機会も減っている。制作者と来場者との距離が近く、相手の顔が見える会場での作品上映は、映像作品のクリエイターを目指す本学大学院生にとって、動画サイトへの投稿ではけっして得られない経験となるはずである。さらに過疎化地域の文化振興の一端となる上映会への参加は、作品の制作が社会への働きかけへと展開する現場に立ち会う機会となるだろう。

アニメーションを含めた映像作品の上映会が過疎化地域にすぐさま貢献するとは考えていないが、参考かつ目標とするに足る先行事例はいくつか存在する。たとえば兵庫県たつの市龍野町（重要伝統的建造物群保存地区）を中心に開催されている「龍野アートプロジェクト」とその後継イベントおよび龍野国際映像祭<sup>(2)</sup>の実践と実績は、同種の文化イベントや町おこしを模索する者には大きな励みである。観光が多くの場合において観光地を一度見物すれば完結する消費行動であるのに対し、音楽ライブや演劇、映画祭などのイベントはそのために足を

運ぶリピーターを創出する可能性が高い。集客力のある観光資源を持たない地域はもちろん<sup>(3)</sup>、観光客の再訪があまり望めない観光地にも同種のコンテンツイベントは今後一層必要とされるにちがいない。

#### 二、舞鶴市西舞鶴地区を会場に選定した経緯

本報告は上映会の実施に至るまでの経緯と計画、上映会当日の状況について時系列にそってまとめ、アンケート調査の結果を精査して問題点に対する検証や今後の課題について考察する。まず、なぜ舞鶴市西舞鶴地区を会場に選ぶに至ったのか、その説明から始めたい。筆者はアニメーション研究者として国内外の映画祭やアニメーション関連イベントに関心を持っており、広島やザグレブ、オタワ、アムステルダムなどの国際アニメーションフェスティバルはもちろん、イタリアのボルデノーネ無声映画祭、世界各地のオタク文化ファンイベントや徳島市内各所で開催される大規模なオタク産業イベントのマチアソビ<sup>(4)</sup>にも足を運んで、アニメーションの社会的影響力や経済効果について観察を続けてきた。前節で言及した龍野国際映像祭もそのなかの一つであり、歴史ある商家を改装したイベントホールや古民家カフェを会場とする映像作品の上映では、規模は小さくともそれまでには味わったことがなかった視聴経験を得ることができた。

観光資源のあるなしにかかわらず映画やアニメーションのファンを誘致する映画祭やアニメーションフェスティバルの魅力をあらためて実感し、昔情緒はあるが人口減少が懸念される町で上映会を開催する方法論を別の地域にも移植できないか、地域と映像作品の作者と鑑賞者の三者にとってWin-Winの環境を整えることはできないだろうかと考えていた矢先に出会ったのが、舞鶴市西舞鶴地区のミニシアター「セイス／シネ・グルージャ」<sup>(5)</sup>であった。そもそも、京都や大阪では上映が終了し見逃してしまった映画を遠出してでも観ようとして（作品が映画配信サービスで視聴できる保証はないので）、その作品がまだ上映中の映画館として探し当てたのであるが、質素で穏やかな北欧調の内装と、カフェ併設というよりも落ち着いたカフェの中で映画を上映するというコンセプトに興味を持ち、映画鑑賞と地方都市におけるミニシアターの調査を兼ねて、事前にアポイントを取って現地を訪問した（二〇二三年四月一九日）。

セイス／シネ・グルージャは二〇一九年七月に開館したミニシアターで客席数は約四〇、歴史ある港町で城下町でもある西舞鶴の中でもとくに海運業や商

業で栄えた街区の一角にある。「セイス」はサーカスのテントのような六角形の建物およびカフェの名称でスペイン語の数字の6「seis」に由来し、映画上映の場である「シネ・グルージャ」もやはりスペイン語の鶴「grulla」から取られている。代表の中嶋一晶氏にインタビューしたところ、同じ舞鶴市内ではあるが、一山越えた東舞鶴地区にある舞鶴八千代館<sup>⑥</sup>とは上映作品の選択や、ピアノの生伴奏付きサイレント映画上映などの実施によって差別化ができており、かつて映画ファンによる映画ファンのためのマニアックなミニシアターではなく、音楽イベントも開催できる多目的かつ地域に開かれた「コミュニティシネマ<sup>⑦</sup>」を目指しているとのことであった。

中嶋氏もむろん映画愛好者の一人であるが、映画に対する知識を入会資格とするような、閉じた同好会となることから距離を取る姿勢には筆者も大いに共感するものがあつた。フィンランドの映画監督アキ・カウリスマキ作品のファンだという点が一致したことも手伝って話が弾み、その流れのまま大学と地域の連携も視野に入れた上映会の提案をして、中嶋氏の快諾を得ることができた。上映会じたいは西舞鶴であればアーケード街にある舞鶴市西市民プラザ<sup>⑧</sup>でも実施できるが、映画館ではないので上映に必要な機材や音響・防音設備が万全ではなく、金銭的有利さよりもマイナス面の方が大きい。他方セイス／シネ・グルージャは規模は小さくとも映画館としてのキャリアをもち、大学と地域の連携を進めるうえで他では得難い窓口であり、管理運営するウェブサイトやSNS上で上映会の情報発信を依頼することもできる。こうして「歴史ある町でアニメーションの上映会を開催して産学連携にも貢献する」という漠然とした願望であつたものが、地域に根ざしたコミュニティシネマおよびその代表者との思いがけない出会いによって一度に条件が整い、実現に向けて道が開けることとなったのである。

### 三、上映会の計画と進捗

インタビュー調査から飛躍して上映会の開催に向けた最初の打ち合わせまで済ませた筆者は、セイス／シネ・グルージャで見聞した内容と上映会の計画について、本学大学院情報デザイン・プロダクトデザイン領域アニメーション分野の同僚である大西宏志教授と中村古都子特任准教授に報告し、協力を仰いだ。商業性に縛られない多様な作品を上映して地元の人々に観てもらう、在学

生あるいは修了生に参加を呼びかけて作品について作者本人が語る時間を設ける、という方針についても意見がまとまり、日程の調整、経費の確保、上映作品の選定、告知ポスターの制作など、上映会の実施に向けて具体的に動き出すこととなった。

まず上映会の日程について、二〇二三年九月一〇月ごろに一回目を開催し、二回目は二〇二四年二月末から三月初旬の時期（修了展と学位授与式の間）に、最新作を含めた修了作品集を上映することに決まった。一回目の上映会について、毎年一〇月二八日の「国際アニメーションデー」(International Animation Day、以下IAD)に合わせて日程を組み、ASIFA-JAPAN（国際アニメーションフィルム協会日本支部）<sup>⑨</sup>から作品集DVDを借りて上映すればどうかと大西教授から提案があつた。作品集DVDはASIFA-JAPAN会員の代表作で構成されているうえに、IADに関連した非営利の上映であることを前提として貸し出し無料なので上映会にかかる経費を抑えることができ、さらにASIFA-JAPANとIADの告知媒体へ上映会情報の掲載依頼もできる。まさにグッドアイデアであつた。

経費の工面についても大西教授から本学の研究助成について案内があり、筆者を研究代表者、大西教授と中村特任准教授を共同研究者として二〇二三年度特別制作研究費助成に応募することにした。上映会の目的と意義、期待される教育効果、方法と計画について概説するとともに、セイス／シネ・グルージャでの上映会二回分の費用（会場レンタル費、告知ポスターとチラシの制作印刷費）と、アニメーション分野の教員三名の往復交通費および在学生の交通費半額補助を計上して申請を行った結果、二七三〇〇円を上限とする助成案が採択された（六月三〇日）。計画が大学当局に認められたことを受けて日程を確定する協議を再開し、セイス／シネ・グルージャ側への打診を経て、最終的に一回目の上映会は一〇月二八日土曜日のIAD当日の実施に決定した。

開催概要を固めていくなかで上映会のタイトルは《国際アニメーションデー二〇二三 in 西舞鶴》に決まり、作品集DVD vol.1<sup>⑩</sup>の上映およびウェブサイト上での告知についてASIFA-JAPAN事務局と交渉を重ねるとともに、中村特任准教授に舞鶴市内各所に配布するポスターとチラシのデザインを依頼した。IADに関連した上映会では、アニメーション誕生のお祝いとして毎年ASIFA本部から各支部に配布される共通の図案を使用することになっており、二〇二三年はジョルジュ・シュヴァイツゲベル (Georges Schwizgebel ASIFAスイス支部会員)



図1 第一回上映会ポスター  
およびチラシ (表)



図2 第一回上映会  
チラシ (裏)

氏のイラストレーション作品が提供された。入稿したデザインとは色調の異なるものが納品されるというアクシデントもあったが、ポスターとチラシ(図1、2)は上映会前一ヶ月以上の余裕をもって大学に届けられた(九月一九日)。少し前後するが、ポスターの納品を待つ間に筆者はセイス／シネ・グルージャの中嶋氏と連絡をとり、舞鶴観光協会の後援を得られるよう仲介を依頼して了解を得た。中嶋氏にはさらに筆者と舞鶴観光協会事務局とのミーティングについても調整をお願いし、舞鶴市の観光スポットで東舞鶴地区にある舞鶴赤れんがパークの見学も兼ねて、ポスターとチラシを持参のうえ舞鶴観光協会の吉岡久事務局長との面会に臨んだ(九月二五日)。芸術大学と提携したアニメーション上映会はこれまでにない試みであり、ぜひ継続して欲しいとの評価を得ることができ、ポスターおよびチラシの舞鶴市内各地(鉄道駅や観光案内所、公民館やホテルなど)への配布も観光協会経由で行ってもらえることになった。

吉岡氏に伺った話によると、舞鶴市には水産市場や赤れんがパークのような観光施設はあるがいずれもお立ち寄りポイントに留まっており、日本三景の天橋立と温泉を擁する宮津市に宿泊需要の多くを取られ、かつ舞鶴市内の宿泊者の多くが関西電力関係の出張者であるために、団体あるいはファミリー向けのホテルも立地しにくいとのことであった。舞鶴市には一九〇一(明治三四)年に発足した舞鶴鎮守府をルーツとする海上自衛隊の基地があり、ブラウザーゲーム(二〇一三年サービス開始)から幅広くメディアミックス展開した『艦隊これくしょん―艦これ―』に登場することによって、艦これファンの「聖地」となった経緯がある。しかしコロナウィルスの流行以前から関連イベントの来客者数は減少しており、いずれは少数の熱心なファンだけになるだろうと吉岡氏は観測されていた。

「艦これ」や軍港の歴史に由来する観光資源を有する東舞鶴に対して、西舞鶴

国際アニメーションデー2023 in 西舞鶴 (2023.10.28) 来場者アンケート

本日はご来場いただきまして誠にありがとうございます。  
今後の上映イベント運営と研究調査の参考資料といたしますので、アンケートにご協力をお願いします。

- ご年齢(丸で囲んでください)  
18歳未満 18～25歳 26～35歳 36～45歳 46～55歳 56～65歳 66歳以上
- 本日はどちらからお越しになりましたか? 都道府県 [ ] 市区町村 [ ]
- 本日の上映会開催を何で知りましたか? (丸印を記入ください・複数選択可)  
国際アニメーションフィルム協会日本支部 (ASIFA-JAPAN) ウェブサイト 各種 SNS ガスター・チラシ  
セイス／シネ・グルージャウェブサイト 友人・知人 その他 [ ]
- 本日の上映会に参加した理由をお聞かせください。(丸印を記入ください・複数選択可)  
アニメーションが好き・興味があつた 会場のセイス／シネ・グルージャが好き・興味があつた  
プログラム内容に興味があつた 短編アニメーション作品の上映会に興味があつた とくに理由はない  
その他 [ ]
- 本日の上映作品の中で気に入ったものはありましたか? (丸で囲んでください)  
・ はい わかれば作品名を記入ください [ ]  
・ いいえ
- 本日の上映会の満足度をお聞かせください。(丸で囲んでください) 満足 普通 不満  
よろしければ理由をお聞かせください  
[ ]
- 今後このような催しがあれば参加したいと思いますか? (丸で囲んでください) はい いいえ
- 「国際アニメーションデー2023 in 西舞鶴」についてご感想・ご要望がありましたらご自由にお聞かせください  
[ ]

ご協力ありがとうございました。

京都芸術大学 2023 年度 特別研究費助成事業 (研究代表者: 今井隆介)

図3 第一回上映会アンケート

は城下町を起源とする歴史的街区の街並み保存や観光地化がなされていると言いがたい。観光面だけでなく、自衛隊基地があり市役所も総合文化会館もデパートもある東舞鶴とそうではない西舞鶴とは、社会資本の根本において人口比<sup>(1)</sup>以上の格差が生じている印象が否めない。舞鶴市も急速な人口減が起きている自治体であるが<sup>(2)</sup>、観光客数などの統計において東西舞鶴がひとくりされることによって見えにくくなっている部分があり、それもまた他の自治体にはない舞鶴市に特有の問題を形作っていると思われる。

#### 四、第一回上映会《国際アニメーションデー二〇二三 in 西舞鶴》の開催とアンケート調査分析

ASIFA JAPAN 作品集 DVD vol.1 には一三作品が収録されており、上映時間は合計で約七六分となるが、短編アニメーションを見慣れていない観客の来場を考慮して、二・四作品すなわち二〇分ほど上映することに解説と小休憩をはさみながら進行することとした。全体のスケジュールは、JR京都駅と舞鶴市を結ぶ高速バスの着発時刻を基準に余裕をみて一三時三〇分開場、一四時開演、一六時三〇分終了予定と設定した。全体の司会進行は筆者が担当し、ASIFA JAPAN 会長代行(当時)でもある大西教授には作品解説を、中村特任准教授には上映会当日の写真撮影記録やアンケート(図3)の配布回収などの総務的補助をお願いした。





写真1

一〇月二八日当日の西舞鶴は絶好の秋日和となり、もともと開口部が広くて日光と外気がよく入るセイス／シネ・グルージャはさらに魅力ある映画館となっていた。天候に恵まれたとはいえ、短編で非商業的なアニメーション作品の上映会というイベントは一回目としてはハードルが高いのではないかと、結局のところ自主制作アニメーションに関わりのある内輪だけの集まりになるのではないかと心配していたが、意外にも大入り満員でかつ地元からの来場者が半数以上を占める結果となった(写真1)。とくに小学生児童の来場があったことは嬉しい誤算であり、地方都市におけるアニメーション視聴者の掘り起こしに希望を持つことができた。上映作品のなかには純粋に面白く楽しめるものがいくつかあり、子どもたちの笑い声も上がって上映会は終始和やかな雰囲気のまま進行し、とどこおりなく予定通り一六時三〇分過ぎに終了した。

回収された来場者アンケートは三一件であった。本学からは教員三名の他にアニメーション分野の博士課程一年生二名と修士課程一年生一名の参加があったので総数は三七名となり、セイス／シネ・グルージャの収容数の上限にほぼ達したと言える。なお、中嶋氏によると上映開始時刻に間に合わず、満席のため参加を諦めて帰った来場者も若干名いたとのことであった。以下アンケートを集計した結果を分析考察を交えながら報告したい。まず「本日の上映会開催を何で知りましたか? (複数選択可)」という質問に対する回答は次のようになり、セイス／シネ・グルージャが普段から耳目を集めていること、口コミが重要であることがあらためて明らかになった。

ASIFA-JAPAN ウェブサイト
1
各種SNS
5
ポスター・ チラシ
2
セイス／シネ・ グルージャ ウェブサイト
10
友人・知人
14
その他
6

舞鶴市と周辺におけるセイス／シネ・グルージャのプレゼンスの大きさは「本日はどちらからお越しになりましたか?」という質問に対して、以下のように舞鶴市とその南隣の綾部市、東隣の福井県高浜町からの回答の合計が全体の三分の二以上を占めたことでも裏付けられる(降べき順に整理)。

舞鶴市
19
京都市
4
綾部市
2
福井県 高浜町
2
南丹市
1
豊中市
1
草津市
1
湖南市
1

以上二項目の結果を否定的に解釈した場合、より広い範囲に訴求したわけではなく、遠隔地から来場者を集めるには及ばなかったと言えなくもない。しかしセイス／シネ・グルージャの収容上限に達したことは事実であり、地元根ざしたコミュニティシネマの威力が十分に発揮されたことは間違いない。西舞鶴のミニシアターが映画ファンやアニメーションファンに広く認知され、近隣はもちろん京阪神圏とそしてさらに遠方からもファンが集まる「聖地」となるかどうか、今後も観察を続けたい。

来場者の年齢分布は次のとおりであった。

18歳未満
7
18～25歳
0
26～35歳
5
36～45歳
8
46～55歳
4
56～65歳
4
66歳以上
1

一八～二五歳の来場者がなかったのは筆者にとっては意外であった。広島国際アニメーションフェスティバルなどに数多く参加してきた経験において、自主制作アニメーションの上映会に集まるのは大学生や芸大生、専門学校生などの若者が中心であると筆者は考えていたが、それは環境や条件を考えない思い込みであったようである。なぜ筆者の経験とは逆の結果となったのか、当て推量ではあるが、西舞鶴の近隣に総合大学がなく<sup>(13)</sup>、二〇歳前後の「学生」という

社会集団が大都市圏に比べて希薄であることと関係があるかもしれない。

「本日の上映会に参加した理由をお聞かせください（複数選択可）」という質問の回答はいくつかの点で興味深い結果となった（降べき順に整理）。

アニメーションが 好き・興味があった
18
会場のセイス／シネ・ グルージャが好き・興味があった
10
プログラム内容に 興味があった
9
短編アニメーション 作品の上映会に 興味があった
9
とくに理由はない
2
その他
2

「会場のセイス／シネ・グルージャが好き・興味があった」の票数は、映像作品・映像コンテンツを視聴する場所、ハードウェアとしての映画館が集客を左右する要因となることを示している。質問「本日の上映会開催を何で知りましたか？」に対する回答「セイス／シネ・グルージャのウェブサイト」の得票率との関連性も認められるだろう。「アニメーションが好き・興味があった」が最多の一八票を集めたのは、より身近ないわゆるアニメ作品への興味関心が加算されたためであるとも考えられるが、商業作品の無料上映会や覆面試写会のような催しだと誤解されてはおらず、内容が正確に伝わったうえでの来場であったことは「プログラム内容に興味があった」と「短編アニメーション作品の上映会に興味があった」の二つが得た九票によって確かめられる。誤解したまま参加した来場者がいたかもしれないが、質問「本日の上映会の満足度をお聞かせください」に対する回答の分布は以下になったので、その場合でも良い意味で期待を裏切ることができたとと言えるだろう。

満足
26
普通
3
不満
0
回答なし
2

自由記入欄には、日常的なアニメとは異なる形式のアニメーションを初めて観た、面白かった、他の作品も観てみたいとのコメントが数多くあり、満足の中身が知的な好奇心を刺激する充実したものであったことがわかる。セイス／シネ・グルージャについても、おしゃれ、きれいな素敵、椅子がいいなどインテリアに関する感想のほか、音響やのんびりゆったりした雰囲気への称賛が多



図4 第二回上映会ポスター  
およびチラシ

メーションの上映会に集客があり、アニメーションや映像芸術に関心をもつ人々にとって原作やキャラクター、作品や作者の知名度はそれほど重要ではないこと、セイス／シネ・グルージャが知的好奇心を満たす場所として地域に認知されていることがわかった。そして、今回の上映会は西舞鶴のミニシアター、コミュニティシネマに集まる人々に受け入れられ、アニメーションの視聴者獲得に貢献することができたのではないかと考えられる。

## 五、第二回上映会《西舞鶴アニメーションデー二〇二三 with 京都芸術大学大学院》の計画と開催、アンケート調査分析

二回目の上映会は、前回からの連続性が感じられるように「国際アニメーションデー」になぞらえてタイトルを《西舞鶴アニメーションデー》とし、二〇二四年三月三日日曜日の開催とすることに決定した。本学大学院アニメーション分野の修了作品で編成するプログラムに、最新の二〇二三年度の作品を加えるためには一月下旬の公開口頭試問の終了後である必要がある、さらに修了展（二月上旬）と学位授与式（三月一五日）の間の週末から最適と思われる日時を選択した結果であった。当日のスケジュールも前回と同様に交通機関の着発時刻を基準に一三時三〇分開場、一四時開演、一六時三〇分終了予定と設定した。

大西教授には修了生に趣旨説明を行なって修了作品の上映許諾を得る交渉の分担をお願いし、最終的に二〇一七年度から二〇二三年度までの計二〇作品を上映できることになった。ポスターとチラシ（図4）は下絵のイラストレーション作成を二〇二二年度の博士課程修了生の景燦さんに、デザインと印刷会社へ

数集まり、固定座席が整然と並んでいる一般的な映画館とは異なる環境が高く評価されていた。以上アンケート調査の結果を総合すると、少なくとも舞鶴市では自主制作アニメーションに関心をもつ人々



図5 第二回上映会プログラム



写真2

の発注を前回と同じく中村特任准教授に依頼して、今回は問題なく納品された（二月四日）。前回よりも準備時間を短縮することができたが、上映会実施一ヶ月前を切っていたため、セイス／シネ・グルージャへは打ち合わせも兼ねて筆者が持参した（二月七日）。その後ASIFA-JAPAN事務局に会員企画としてウェブサイトにおよび一斉配信メールでの告知をお願いしたり、修了作品の映像データの統合や会場で配布するプログラム（図5）の作成を行ったりするなどして上映会当日に備えた。

迎えた三月三日は上巳の節句を祝うにふさわしい穏やかな日和であった。暖冬の影響もあって積雪は全くなく、早春のセイス／シネ・グルージャは錯覚を覚えるほど前回によく似た雰囲気となっていた（写真2）。上映時間は合計で約九六分あり、それぞれが二五分前後となるよう年度順に四つに区分して休憩と解説を挟みながら進行した。筆者は司会進行とそして今回の上映会に参加してくれた修了生とのトークを担当し、大西教授にはアンケート（図6）の配布回収などの総務的補助を、中村特任准教授には上映会の写真撮影記録とタイムキーパーをお願いした。上映作品はじつに多種多様で、ジェンダーや差別や偏見、あるいは児童虐待のような社会問題に対するメッセージ性が明確なものもあれば、軽快なコメディタッチのもの、技巧を凝らした個性的な作風で感性に訴えかけるものもあり、トークがはずんで所定の時間をオーバーする場面もあったが、上映会は穏やかな日曜日の午後の空気を保ったまま一六時三〇分少し前に終了した。

舞鶴市
10 (19)
京都市
3 (4)
福知山市
2 (0)
東京都
2 (0)
福井県 高浜町
1 (2)
豊中市
1 (1)
草津市
1 (1)

母数が異なるとはいえ「友人・知人」との回答が前回より半減したことについては、「本日はどちらからお越しになりましたか？」という質問の回答分布において、以下のように舞鶴市の得票数が前回から半減したこととの関連性が感じられる（降べき順に整理、括弧内は前回の票数）。

ASIFA-JAPAN ウェブサイト
0 (1)
各種SNS
1 (5)
ポスター・ チラシ
3 (2)
セイス／シネ・ グルージャ ウェブサイト
9 (10)
友人・知人
6 (14)
その他
3 (6)

回収された来場者アンケートは二〇件であった。本学からは教員三名の他にアニメーション分野の修了課程一年生一名の参加があり、さらに三名の修了生が上映会に駆けつけて自らの作品について語ってくれた。以下アンケートを集計した結果を分析考察を交えながら報告したい。まず「本日の上映会開催を何で知りましたか？（複数選択可）」という質問に対する回答は次のようになった（括弧内は前回の票数）。

西舞鶴アニメーションフェスティバル2024 with 京都芸術大学大学院 (2024.3.3) 来場者アンケート

本日はご来場いただきまして誠にありがとうございます。  
今後の上映イベント運営と研究調査の参考資料といたしますので、アンケートにご協力をお願いします。

・ご年齢（丸で囲んでください）  
18歳未満 18～25歳 26～35歳 36～45歳 46～55歳 56～65歳 66歳以上

・本日はどちらからお越しになりましたか？ 都道府県 [ ] 市区町村 [ ]

・本日の上映会開催を何で知りましたか？（丸印を記入ください・複数選択可）  
ポスター・チラシ 国際アニメーションフィルム協会日本支部（ASIFA-JAPAN）ウェブサイト  
セイス／シネ・グルージャウェブサイト 各種SNS 友人・知人 その他 [ ]

・本日の上映会に参加した理由をお聞かせください（丸印を記入ください・複数選択可）  
アニメーションが好き・興味があつた 会場のセイス／シネ・グルージャが好き・興味があつた  
プログラム内容に興味があつた 短編アニメーション作品の上映会に興味があつた とくに理由はない  
その他 [ ]

・本日の上映作品の中で気に入ったものはありましたか？（丸で囲んでください）  
・はい わかれば作品名を記入ください [ ]  
・いいえ

・本日の上映会の満足度をお聞かせください（丸で囲んでください） 満足 普通 不満  
よろしければ理由をお聞かせください

・今後このような催しがあれば参加したいと思いませんか？（丸で囲んでください） はい いいえ

・「西舞鶴アニメーションフェスティバル2024」についてご感想・ご要望がありましたらご自由にお聞かせください

ご協力ありがとうございました。  
京都芸術大学 2023 年度 特別研究費助成事業（研究代表者：今井隆介）

図6 第二回上映会アンケート



綾部市と南丹市からの来場者がなくなつて今回新たに福知山市からの来場者があつたことは、リピーターの獲得の難しさもさることながら近隣への波及としてもとらえることができるだろう。なお東京都の二票は修了生のものである。来場者の年齢分布は次のとおりであつた（括弧内は前回の票数）。

18歳未満
2 (7)
18～25歳
0 (0)
26～35歳
7 (5)
36～45歳
3 (8)
46～55歳
4 (4)
56～65歳
3 (4)
66歳以上
1 (1)

一八～二五歳の来場は前回と同じく〇となり、やはりこの年齢層に関しては地元から来場者を得るのは難しく、学生そして若者を集めるのであれば遠方の大都市圏から呼び込む必要があると思われる。前回と今回の数字の変動を見ると、一八歳未満の来場者数と三六～四五歳のそれとは連動性を感じられる。児童と保護者に訴求することの重要性があらためて明らかになったと言えるだろう。「本日の上映会に参加した理由をお聞かせください（複数選択可）」という質問に対する回答分布および数の変動は以下ようになった（降べき順に整理、括弧内は前回の票数）。

アニメーションが好き・興味があつた
10 (18)
会場のセイス／シネ・グルージャが好き・興味があつた
10 (10)
短編アニメーション作品の上映会に興味があつた
6 (9)
その他
6 (2)
プログラム内容に興味があつた
3 (9)
とくに理由はない
0 (2)

「プログラム内容に興味があつた」という回答の比率が半減した一方で、「アニメーションが好き・興味があつた」と「短編アニメーション作品の上映会に興味があつた」の得票比率に大きな動きはなかった。これはつまり、アニメーションに興味があつて短編作品の上映会に足を運ぶ人々にとって、内容に関する事前情報はそれほど重要ではないことを示していると思われる。「会場のセイス／シネ・グルージャが好き・興味があつた」の回答比率が、質問「本日の上映会開催を何で知りましたか？」に対する回答「セイス／シネ・グルージャのウェブサイト」の比率と同期するかのようになっていることも興味深い。今回の来場者にリピーターが多かつたことは、自由記入欄のコメントにセイス／シ

ネ・グルージャに関するものがほとんどなかった点にもあらわれており、セイス／シネ・グルージャに行くとかかしら日常にはない刺激的なものに出会えるという認識がリピーターの間で共有されているようである。なお、質問「本日の上映会の満足度をお聞かせください」に対する回答は以下のとおりであつた（括弧内は前回の票数）。

満足
18 (26)
普通
1 (3)
不満
0 (0)
回答なし
1 (2)

## 六、総評と今後の課題

「今後このような催しがあれば参加したいと思いませんか？」という質問の回答は以下のような結果となつた（括弧内は前回の票数）。

はい
19 (24)
いいえ
0 (0)
わからない
0 (1)
回答なし
1 (6)

上映会の感想や要望について自由記入欄に書かれたコメントを集約すると、①今まで知らなかった表現のアニメーションを観てワクワクできたし、いろいろ考えるきっかけにもなった。だから②他のASIFA-JAPAN作品集DVDや海外の作品、学生や若手のフレッシュな感性の作品も観てみたいし、中村古都子作品集のような作者を特集した上映会にも参加したい。なので③上映会を定期的に開催して欲しい。というの④舞鶴には大学がないためにアカデミックなことや国際的な雰囲気イベントに参加する機会が少なく、上映会で交流できるのはありがたいから、という論理展開に整理することができた。日常的なアニメとは似て非なる多種多様なアニメーションに触れることによって、さらに別なまだ見たことがない表現の作品も観たくなる「アニメーション欲」のようなものが来場者のなかに湧き立った様子が見てとれる。

セイス／シネ・グルージャは一地域のコミュニティシネマとしてあるだけでなく、ピアノの生伴奏付きサイレント映画上映会という映画ファンにも広く通用する切り札を持っているが、そこにもう一つアニメーションというカードが

加わる気運が高まったと言える。勢いが衰えないうちに第二第三の加速をかけてアニメーション上映会を軌道にのせるべきであるが、そのためには持続可能な経費の捻出手段を整えていかねばならない。今回は本学の特別制作研究費助成を得たおかげで上映会の無料化が実現したが、有料の上映会も試行して料金や集客について感触を得ておく必要があるだろう。二回の上映会の成功と反省を踏まえて関係各方面により一層の働きかけを進めていきたい。

上映会に対するコメントとして、質問や対話の時間ももっと欲しかったという意見が複数寄せられた。とくに二回目の上映会は作者が自分の作品について語ったり、観客と作者が直接対話したりする機会ではあったが、二〇作品の上映が消化するべきタスクと化してしまい、来場者同士で話し合う時間が短くなったことは否めない。公共交通手段が密ではない地域であることを念頭に置いて、余裕を持つてスケジュールを組んだつもりであったが、それでも十分ではなかったという結果となった。上映会においてトークセッションが作品の上映と同等に求められていたことは、制作のプロセスや費用などについて聞いてみたい、あるいはメイキング映像や制作風景を見たいという複数のコメントにも表れている。セイス／シネ・グルージャを会場とするならば、消化に追われるほどの多くの作品を詰め込んで、特有の和やかな雰囲気損ねた慌ただしい上映会にしてしまつてはならないし、作者を交えたトークセッションを行うのであれば、来場者のモチベーションの高さを考慮して作品の上映に倍する時間を割く必要があるだろう。リピーターを獲得するためにも今回得た教訓を生かしてよりよいアニメーション上映会の実現に努めたい。

自由記入欄に寄せられたコメントのなかにはワークショップの実施を望む声もあった。《西舞鶴アニメーションデー》を継続させるためには、地域の「アニメーション熱」が冷めないうちに次の一手を打つべきであるが、ワークショップは産学連携による地域交流の確実なステップともなるだろう。間をおかず戦略を練って計画を進めたい。戦略を練るといえば、本学でアニメーションを学ぶ大学院生を西舞鶴の上映会に参加させる方策も考えておく必要がある。本学の在学生は特別制作研究費助成から交通費半額補助を受けることができたのだが、上映会の参加者は二回合わせて四名にとどまった。大学院生が上映会をとおして実地に学ぶという点では限定的な結果に終わったので、今後は有益さを強調したり、天橋立にも足を伸ばすエクスカッションと組み合わせたりするな

どの対策を講じて、まとまった数の参加を実現したい。

西舞鶴で実施した二回の上映会《国際アニメーションデー二〇二三 in 西舞鶴》と《西舞鶴アニメーションデー二〇二三 with 京都芸術大学大学院》は計画に賛同してくださった方々の助力がなければ実現しなかった。文末のこの場を借りてみなさまに感謝申し上げたい。助成申請を採択してくださった特別制作研究費助成審査会のみなさま、セイス／シネ・グルージャ代表の中嶋一晶氏、吉岡久舞鶴観光協会事務局長、ASIFA-JAPAN長尾真紀子事務局長、ASIFA-JAPAN作品集DVD Vol.1に作品を提供してくださった作家のみなさま、来場者のみなさま、本学アニメーション分野の大学院生、修了生諸君。ありがとうございました。共同研究者の大西宏志教授と中村古都子特任准教授には心強い援助と温かい励ましをいただいた。あらためて感謝申し上げます。

## 註

- (1) 一般に座席数が三〇〇以下と小規模で大手映画会社の直接的な影響下にはなく、独自に興行を行う経営スタイルの映画館を指す。
- (2) 公式ウェブサイト <https://fatsuno-fest.com> (二〇二四年五月四日閲覧)
- (3) イタリアのボルデノーネは観光地としてはほぼ無名だが、ボルデノーネ無声映画祭(公式ウェブサイト <http://www.giornatedelcinemautic>) 二〇二四年五月四日閲覧が一九八二年以来毎年開催されることによつて、映画祭期間中は世界有数の「映画都市」となる。
- (4) 公式ウェブサイト <https://www.machiasobi.com> (二〇二四年五月四日閲覧)
- (5) 公式ウェブサイト <https://cinegrulla.com> (二〇二四年五月四日閲覧)
- (6) 公式ウェブサイト <http://maizuru-yachiyoco.com> (二〇二四年五月四日閲覧)
- (7) 一般社団法人コミュニティシネマセンター公式ウェブサイト <http://jc3.jp/wp/> (二〇二四年五月四日閲覧)
- (8) 公式ウェブサイト <https://maizuru-plaza.jimdofree.com> (二〇二四年五月四日閲覧)
- (9) 公式ウェブサイト <https://www.asifa.jp/index.html> (二〇二四年五月四日閲覧)
- (10) 収録作品の詳細については公式ウェブサイト(当該ページ) [https://asifa.jp/dvd/index\\_voll.html](https://asifa.jp/dvd/index_voll.html) (二〇二四年五月四日閲覧)を参照。



- (11) 舞鶴市が公開している二〇二四年四月一日付推計人口では、東舞鶴の四三八五人に対し西舞鶴は二八七三人となっている。舞鶴市公式ホームページ「市政情報」「統計・報告」「推計人口」<https://www.city.maizuru.kyoto.jp/shisei/0000002271.html>（二〇二四年五月四日閲覧）参照。
- (12) 舞鶴市の二〇一九年三月一日付け推計人口八〇五六五人（東西舞鶴および加佐地区の合計）に対し、二〇二四年四月一日付け推計人口は七五四六六人である。舞鶴市公式ホームページ参照。
- (13) 西舞鶴から距離的に最も近い総合大学は福知山公立大学で（約三五キロ）、在籍者は二〇二三年五月一日時点で八五四名となっている。公式ウェブサイト [https://www.fukuchiyama.ac.jp/about/educational\\_info/number\\_students/](https://www.fukuchiyama.ac.jp/about/educational_info/number_students/)（二〇二四年五月四日閲覧）参照。